

ニッパツグループCSRの考え方

社会の一員として、当社の果たすべき役割を認識し、CSR活動を円滑に推進するため、グループで意思統一を図っています。

CSR推進責任者メッセージ

ニッパツグループ これからのCSR



CSR推進責任者 代表取締役副社長 嘉戸 廣之

当社は、社訓と企業理念を経営方針の基本としており、「魅力ある企業集団を通じて、豊かな社会の発展に貢献する」ことが使命であると考えております。

本業である、自動車、情報通信、産業・生活の各分野における「ものづくり」を通して、株主・投資家、お客様、取引先、従業員、地域社会をはじめとする当社を取り巻く幅広いステークホルダーの皆様との対話を通じ、その期待に応え、信頼される企業として、様々な社会課題の解決に取り組んでおります。

健全な事業活動を継続するために、コーポレート・ガバナンス体制を強化し、中長期的な観点で企業価値を高めていくことを目指しております。あわせて実効性のあるリスクマネジメント体制の強化を図るとともに、コンプライアンスの周知徹底、グルー

プ全体の意識の向上を図っております。また常に人権を尊重し、人材の多様性を推進していきます。さらに、企業活動において地球環境との共生、調和を図るための行動指針・行動計画を定め、グループとして地域・社会の環境保全に積極的に取り組んでおります。

2016年度の経営方針には「全員参加でのCSR活動への取り組み」を掲げ、CSR活動の推進・浸透、および質の向上に向けて取り組んでおります。

当社グループ会社の拠点は、国内・海外の様々な地域に及んでおり、地域社会から世界への共生の輪が広がるよう、中長期的な経営戦略の視点で、グループをあげて、グローバルで社会課題の解決に取り組んでまいります。

コーポレート・ガバナンス

健全な事業活動を継続するため、ガバナンス体制の整備を行っています。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は経営上の組織体制や仕組みを整備し、必要な施策を実施することで、経営の健全性を維持するとともに、中長期的な観点で企業価値を高めていくことを目指しています。

1. 株主の権利およびその平等性を確保するとともに、適切な権利行使ができる環境の整備に努めます。
2. 株主、顧客、取引先、地域社会、従業員等、当社を取り巻くステークホルダーに対して企業としての責任を果たすことにより、良好な関係の維持に努めます。
3. 法令に基づく開示を適切に行うとともに、法令に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組みます。
4. 取締役会では、取締役各人の事業に精通した知見と経験に基づき付議事項を集中的に審議して経営の最高方針を決め、事業経営動向について監督するほか、付議事項から派生する経営課題に対しても、積極的に議論を行い、取締役会としての適切な役割・責務の遂行に努めます。
5. 株主とは建設的な対話に努め、また対話を通じて収集した株主の意見などは、経営陣・取締役へフィードバックすることで、情報の周知・共有に努めます。

コーポレート・ガバナンス体制

意思決定機関として株主総会、取締役会がありますが、迅速な意思決定を行うため、2005年度より執行役員体制を採用し、2016年6月28日時点で、取締役は9名(社外取締役2名を含む)

となっています。なお、2015年度より社外取締役を選任し当社経営の意思決定の妥当性および当社経営に対する監督の有効性を確保しています。

審議機関としては、経営戦略会議、各委員会があります。特に経営戦略会議は少数で意見交換ができるように、取締役、常勤監査役および各生産本部、事業本部の本部長で構成しています。監査機関として監査役会は、2016年6月28日現在で、4名の監査役のうち、2名の社外監査役が就任しています。

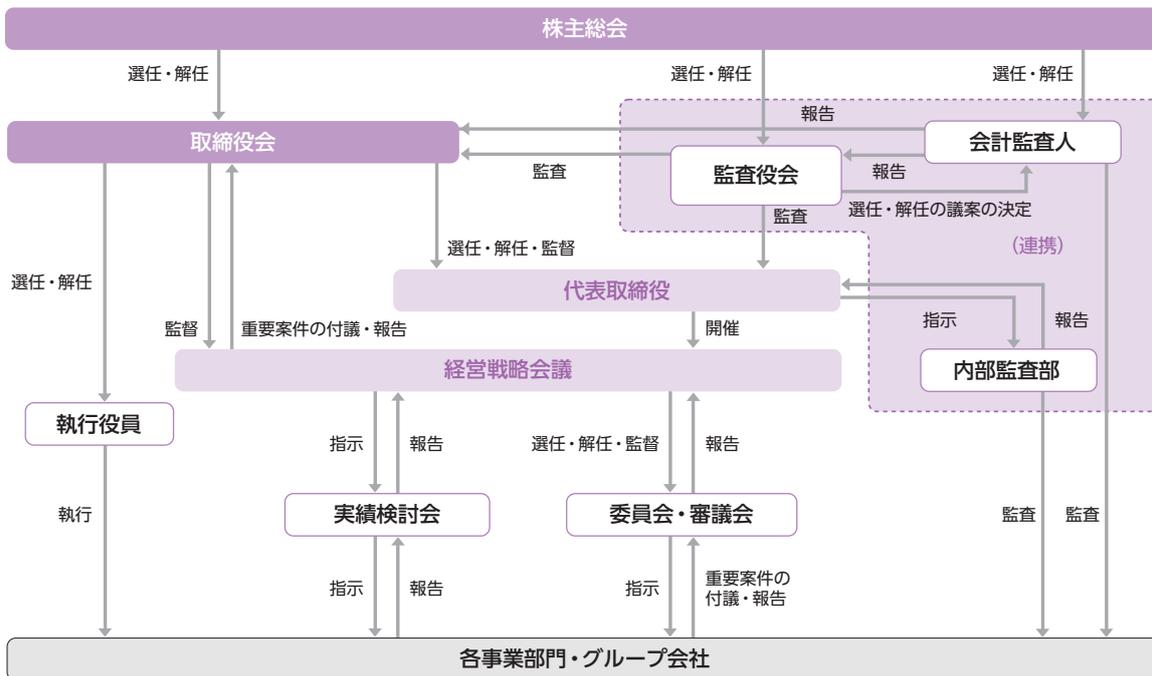
内部統制システムに関する基本的な考え方

当社は「ニッパツ社員の行動指針」においてすべての役員、社員が法令および企業倫理を順守することを定めるとともに、「コンプライアンス規程」の中で、コンプライアンス最高責任者(代表取締役社長)・同推進責任者(企画管理本部長)・同指導責任者(各部門長)・同推進事務局(法務部門)とする体制を構築し、コンプライアンス推進を行っています。また「ニッパツ社員の行動指針活用マニュアル」を作成しており、この活用マニュアルなどに基づき教育・啓発活動を実施し、法令違反、反社会的行為発生の事前防止を図っています。

なお、当社および一部グループ会社において総務・法務部門、人事部門を相談窓口とする相談・通報制度を設けるとともに、グループ全体において当社が契約する社外弁護士に直接相談できる体制を整えています。

内部監査部門は、業務の有効性、効率性、法令などの順守、財務報告の信頼性確保を目的にグループ会社を含めて、計画的に監査を実施しています。

■ガバナンス体制図



リスクマネジメント

リスク管理体制を整備するとともに、あらゆるリスクの対応に取り組んでいます。

リスクマネジメント体制

企業の抱えるリスク(危機)は自然災害だけでなく、想定外のことが発生する可能性があります。当社では社会的責任を果たすためにも様々なリスクに対し、未然防止と被害を最小限にとどめるため、リスク管理規程を制定し、緊急時に的確に対応するための組織・ルールづくりなどのリスク管理体制を構築しています。

従業員一人ひとりが日常からリスクに対して理解を深め、想定外のリスクが発生しても的確かつ迅速に対処し、早期に解決できるようにさらなる改善を目指しています。

国内・海外への支援体制

2010年から国内・海外グループ会社で、日常業務における潜在的リスク(オペレーショナルリスク)の実態調査を実施し、リスク評価、優先課題の把握を行っています。現在では、グループ各社による定期的な自主採点手法を導入し、重点課題への対応策については当社本社の各部門が支援する体制をとっています。また、流動的な世界情勢に対応するため、海外グループ会社の撤退基準についても検討しています。

リスク発生への対応

自然災害への対策としては、防災措置はもちろんのこと、BCP(事業継続計画)の策定やBCPIにつなげるためのリスク発生直後の訓練も実施しています。

国内・海外で緊急事態が発生した場合には、リスク発生地区で迅速に対策本部を立ち上げ、本社に対策総本部を設置し、早期に事態の収拾を図ります。

コンプライアンス

当社は、コンプライアンスを、法令順守はもちろん、社会の様々な要求に誠実に応えることととらえ、経営の大きな柱の一つとしています。コンプライアンス経営実現のため、最高責任者である社長のもと、全部門を統括する推進責任者および各部門の指導責任者を配置した体制をとっています。

コンプライアンスに関する通報・相談の窓口として、社内および外部法律事務所にホットラインを設け、従業員が疑問に思った時に相談や内部通報を行うことができる仕組みを整えており、今年度から中国グループ各社に内部通報制度の導入を行っています。

CSR推進委員会

2014年、リスク管理委員会をCSR推進委員会に統合し、リスクマネジメントを企業の社会的責任の一環として取り組んでいます。CSR推進委員会では各事業所や国内・海外で発生したリスク状況や対策の情報共有を行うとともに、緊急事態が発生した場合の再発防止について検討し、経営戦略会議へ報告する体制となっています。

BCP(事業継続計画)

BCPIについては、「ニッパツグループBCP基本方針」および「ニッパツグループBCPガイドライン」を国内・海外のニッパツグループ全社に配布し、BCM(事業継続マネジメント)体制の構築を進めています。

リスク発生時には、対策本部を招集し、対策本部長の指揮のもとに所管部門および関係部門が一体となって迅速な対応を行う体制をとっています。

2011年からは、国内グループ会社も参加し、大地震発生時の初動対応訓練および速やかに事業を復旧して継続するためのBCP訓練を実施しています。これらの訓練の反省に基づき、より実践に即した危機対応ができるようBCPや各種手順書などの改訂を行い、危機管理体制のステップアップを図っていきます。また、2015年からは海外グループ会社でも初動対応訓練を実施しています。



中国グループ会社における初動対応訓練

Voice



CSR部
根木島 篤司

実効性のある事業継続 マネジメント体制の構築

当社は、東日本大震災をはじめ、様々な自然災害、リスクを教訓として、想定外の事態を最小限にするためにBCPの改定に取り組むとともに、マネジメント体制の構築を目指しています。

具体的には、設備が被害を受けた場合、サプライヤーが被災した場合、従業員が被害を受けた場合などにおいて、いかに事業を継続していくかを、関係者全員で知恵を出し合い、対策を検討しています。また計画を策定するだけでなく、様々な訓練を実施することにより、全員の意識を向上させ、BCPの問題点を洗い出し、改善に努めています。

私は、地元の消防団で日々訓練に励んでいますので、その活動経験、技術と知識を生かして、ニッパツグループ内で実施される災害を想定した様々な訓練を支援していこうと考えています。

今後は海外グループ会社の様々なリスクに対するBCPの策定や訓練の実施にも取り組んでいきたいと思っています。

コンプライアンスの取り組み

当社は事業活動のそれぞれの局面において順守すべき具体的な事項と社会的要求を「ニッパツ社員の行動指針」として定め、従業員一人ひとりがコンプライアンスに則って行動するよう努めています。また、国内だけでなく海外においても法令を順守するグローバル・コンプライアンスをさらに強化するため、新入社員、管理職など各階層を対象とした定期研修、独禁法順守、贈収賄禁止などのトップメッセージ発信をはじめとして、グループ各社を含めた従業員への各種グローバル研修を実施しています。

あわせて、コンプライアンス違反の予防に役立つ情報として「コンプライアンス通信・事件簿」「メールマガジン」の配信を発信しています。タイムリーなテーマを中心に選定するため、担当メンバーは、日々、問題意識を持って情報収集にあたっています。当社は毎年11月を「ニッパツ倫理月間」と定め、ポスターの掲示や各種イベントを企画・実行し、ニッパツグループ全体の意識の向上を図っています。

情報セキュリティの確保

当社およびグループ会社各社は、「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー」に基づき、その対策基準や実施手順を定め、確実に管理・運用を行うことにより、お客様やサプライヤーとの取引における情報や、従業員のマイナンバーを含む個人情報の流出防止など、情報資産の保護に努めています。このポリシーは、当社およびグループ会社の役員、従業員、外部委託業者の従業員（派遣社員、アルバイトを含む）に適用されます。保有する情報資産の機密度や内容に応じて、重要度を評価、分類し、適切な管理を行い、機密漏えい、破壊、改ざん、不正利用などをグループ全体で予防しています。



情報セキュリティに関するeラーニング教材を作成し、従業員への教育を通して意識の向上を図る

Voice



CSR部
山崎 あゆ美

従業員一人ひとりの コンプライアンス意識を継続的につくる

コンプライアンス経営の実現には、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識が不可欠です。CSR部では、従業員の日常業務に根ざした事例をもとに、「どのような行動が違反になるのか」という気付きを持ってもらえるよう、「コンプライアンス通信・事件簿」「メールマガジン」などの情報発信を軸に意識向上に取り組んでいます。

また、毎年11月の「ニッパツ倫理月間」では、7月から準備を開始し、その年の重要テーマを決定し、どうしたら興味を持ってもらえるか、部全体でアイデアを出し合っています。昨年は、コンプライアンス宣言と相談体制をいつでも思い出してもらえるよう、携帯できる「コンプライアンスカード」を作成し、従業員全員へ配布しました。

それぞれの取り組みを当社グループの隅々まで行き渡らせることは容易ではありませんが、CSR部では従業員全員がコンプライアンス意識を高めることができるよう、今後も継続的な取り組みを行っていきます。

Voice



情報システム部 主査
山上 元郎

グループ全体への 定着を進める

情報セキュリティは、お客様をはじめとする、ステークホルダーの皆様からの信頼を確保するために必要不可欠であるだけでなく、安全・安心な社会生活を支えるための重要な基盤であると考えています。当社は「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー」に基づき、情報資産を保護しながらも、業務を円滑に遂行するための基本的な考え方を定め、これを従業員全員に周知徹底するための施策として、関連する規定類の整備、eラーニングなどを活用した教育、管理状況の監査と継続的な改善など、情報セキュリティの確保とさらなる強化に取り組んでいます。

また、当部企画グループは、IT統制、システム監査、情報セキュリティを含むITリスクの評価と低減、あるべきITの健全性を維持するための活動を着実に実施し、ニッパツグループ全体へのITガバナンスの構築・定着を進めています。